

# 1 地域共生センター年報 2020 の発行にあたって

地域に根ざし、地域に学び、地域に貢献する滋賀県立大学で地域連携の中心的な役割を担う地域共生センターにとっても、令和2年(2020年)度は新型コロナウイルス感染症対策に追われ、これまでの取組が出来ず試行錯誤をしながらの一年となりました。

新型コロナウイルス感染症に関しては、感染拡大を踏まえ令和2年4月7日に東京都、大阪府など7都府県に緊急事態宣言が発出された後、同月16日には全国に拡大され、5月14日に東京都、京都府、大阪府、兵庫県など8都道府県を除き本県など多くの県では解除され、同月25日にすべてが解除されました。しかしながら、翌令和3年1月8日に京都、大阪、兵庫を含む11都府県に緊急事態宣言が再度発令され東京など首都圏では3月21日まで継続されました。

このような事態を受け、本学では令和2年度前期授業は5月から遠隔授業での遅れたスタートを余儀なくされ、10月からの後期授業も対面で始まったものの、1月途中からは遠隔授業になりました。地域教育においても、グループワークや講師との意見交換などを中心とする講義が多いことからこれまでにない対応を迫られました。テキストや講師の動画を活用しながら提示した課題に対するレポート提出、質問への回答などにより学生の学びを確保しようと努めました。また、実施時期を前期から後期に後ろ送りした科目もありました。

特に地域貢献を目的とする学生主体の地域活動を全学的に支援する「近江楽座」は、地域での感染防止のため活動に大きな制約を受けスタートも9月と遅れました。新型コロナウイルス感染症感染予防の活動指針を定め、それを踏まえて事前に活動計画の提出を求め、承認した上での活動となり、これまで通りの活動はできませんでしたが、学生の皆さんが現状を踏まえて考え、工夫をした活動を行ってくれました。

また、SDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けても、

新型コロナウイルスは更なる試練を与えました。残り10年となった2030年のゴールに向けて、現状では想定できない新たな課題が今後も惹起する可能性があり、目標達成への困難さを警告したものと考えています。本学としてもSDGsの地域化拠点の役割を果たすべくこれまで以上にSDGsにしっかりと向き合い取組を強化して参ります。

令和2年度は、キャンパスSDGsびわ湖大会2020をオンラインで開催することで視聴回数が875回を数えるなど広く多くの方々にご参加頂くことが出来ました。

生涯学習については、これまで多くの方に本学で受講頂いた公開講義や公開講演ができないなど大きな影響を受けました。一方で、オンデマンドで本学教員による3回シリーズの講演を視聴できる取組では、幅広い年齢層や遠隔地からの視聴申込みもあり307人の方にご覧いただくことが出来ました。

このように、コロナ禍の中で、WEB活用によるより効果的な方法が確認でき、今後も積極的な活用を考えていきたいと思えます。

令和3年に入っても、幾度も緊急事態宣言が繰り返されるなど、新型コロナウイルス感染症の影響は先を見通せない状況ですが、この機会にニューノーマルな教育、研究、地域貢献のあり方を真剣に考えて、地域の活性化に貢献して参りたいと思えます。皆様方の益々の御指導・御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年2月

地域共生センター

センター長 高橋滝治郎